



第46回 卒業証書授与式 学校長式辞

校舎の周りに残る雪に降り注ぐ、やわらかくあたたかな日差しが、希望の春を感じさせます。

この佳き日に、PTA会長様、小学校の校長先生、学校評議員の皆様、地域の皆様ほか、多数の御来賓の皆様をお迎えし、保護者の皆様のご臨席を賜り、第46回卒業証書授与式が挙行できますことに、厚く御礼申し上げます。

今、161名の卒業生のみなさんに手渡した卒業証書は、中学校3年間の課程を修了したことと同時に、9年間の義務教育修了を記した、たいへん重みのあるものです。それは皆さんの努力の結果であるとともに、多くの人に支えられて手にすることができた卒業証書でもあります。御家族、先生方、地域の方々など、お世話になった人への感謝の気持ちをもって、今日を、少しでも広い世界へ旅立つ、自分の決意を新たにす特別な日としてください。

みなさんが入学した時に、ちょうどコロナ禍が明けていろいろな活動や行事が復活しました。そこから3年間、とても頼もしい姿になり、新たな本校の伝統の基礎を築いてくれました。朝、玄関での登校の様子だけでも、ずいぶんしっかりした印象がありますし、修学旅行では、互いに声をかけながら協力して行動する姿も見られました。文化祭の合唱では、さすが3年生と感ずる、味わい深いすばらしい歌声で、それぞれの学級にしかないハーモニーを響かせていました。そして、他に頑張っている仲間を讃えて認め合う姿や、場にふさわしい行動を先輩からきちんと受け継いでいました。いろいろな活動を通して「とんつきで学んでよかった」と誇りをもって巣立ってくれると嬉しいですね。そして、今日この場にいる後輩が、さらにしっかりと伝統を積み重ねてくれると確信しています。

みなさんには、2つのことをお話ししてきました。

一つ目は「いろいろなことに挑戦して、小さな失敗をたくさんしてほしい。」ということです。見通しをもちながらも、とにかく、実際にやってみてみないと何が起るかわかりません。最初からあきらめずに挑戦し、たとえ失敗して、自分の力のなさに気づかされたとしても、これから生きるヒントにつながることでしょう。

そしてもうひとつ、「自分の気持ちや考えを、正しい方法で周りに伝えてほしい」ということです。ただ、表現するだけでなく、「正しい方法で」ということがとても大切です。私は、若い頃はそんなことをあまり考えていませんでしたが、いろいろな場所で話をする機会が増えたこともあり、年とともに「言葉」の重さを考えるようになりました。

昨年夏、20年ぶりに教え子と再会した時に、私が、絵本が好きだったことを覚えていてくれて、一冊の絵本をいただきました。おーなり由子さんの「ことばのかたち」という本です。素敵な絵本だったので、その本から少しだけ抜粋

して、紹介します。絵を想像してみてください。

もしも 話すことばが 目に見えたら
どんなかたちを しているだろう

この本は、そんな問いかけから始まります。

たとえば うつくしいことばは 花のかたち
色とりどりの花びらとなって

くちびるから はらはら まいおちる

たとえば だれかを傷つけることばが

針のかたちをしているとしたら どうだろう

話すたびに とがった針が口から発射されて

相手に刺さるのが 見えたとしたら

刺さった場所や血のにじんだ傷口まで見えるとしたら

ことばの使い方は かわるだろうか

わたしの話す ことばは

どんなかたちや 色を しているだろう

このような本です。自分にはたして、どうだろうかと考えさせられます。あなたのことばは、どのような形で、どのような色でしょうか。直接、口から発することばはもちろんですが、それを文字にした時には、なおさら怖く感じることがあります。インターネットの書き込みやメールなどでも、冷静に自分の考えを伝えるのはとてもいいことだと思うのですが、一時的な、その場の感情にまかせて乱暴な言い方で発信したり、実際に話すときには大声で怒鳴る人もいます。一度出した言葉は、謝罪しても消せるものではありませんし、メールやネット上では形になって残ります。そしてネットやメールの場合は、相手の表情もわからないので、受け取った方の感情で決まります。決して細かな「ニュアンス」は伝わらないのです。自分の意見は絶対に正しいと、勝手に正義をふりかざし、当事者でもない人が必要以上に責め立てたりすることもあります。

それぞれの人が言葉の「かたち」や「色」を少しでも想像することができれば、悪口やいじめのようなこともかなり減ると思います。「正しい方法で伝える」ということには、そのような意味も含まれています。今は、いろいろな役に立つ情報が簡単に手に入るし、生成AIなどの技術は、今、こうしている間にも、人が追いつけないくらいに進歩しています。そんな、とても便利で変化に富んだ時代であっても、変わってはいけないものがあるはずですね。これからの時代を生きる皆さんには、人としてなくてはならないものを忘れず、たまに立ち止まって考えながら、生き抜いてほしいと思いますし、何よりも命を大事にして、生きていくことへの感謝ができる人になってほしいと思います。

保護者の皆様、この3年間の中学校生活で、お子様は心身ともに、立派に成長されました。今日まで本校に寄せていただいたお力添えに感謝申し上げますとともに、改めて、心からお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。

卒業生のみなさんがこれからの未来を、たくましく、自信をもって生き抜いていくことを期待して、式辞といたします。

令和8年3月13日

札幌市立東月寒中学校長